

街かどの話題 150

# 次世代につなぐ松本の伝統行事

— 地区児童会が新聞を発行 —



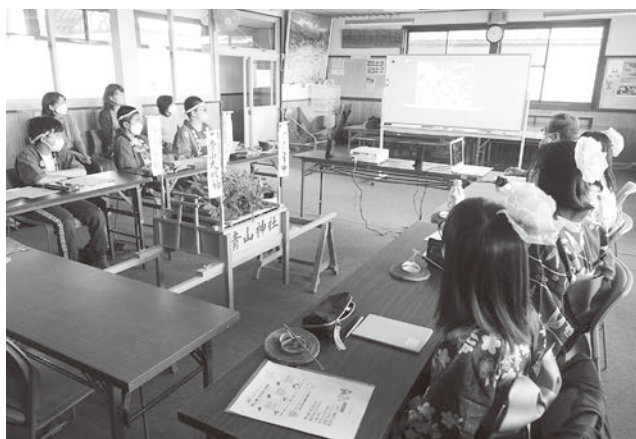
鎌田地区  
 令和4年11月1日現在  
 総人口 20,006人  
 (前年比 +237人)  
 世帯数 9,491戸  
 発行者 鎌田地区公民館  
 公民館報編集委員会



男子はみこしを担ぎ、女子はほうずぎ提灯をさげ、野々宮神社(笹部)の境内を歩いて思い出づくり

笹部町会では鎌田小学校のPTAが中心となつて、コロナ禍の影響で実施ができていない子どもたちの夏の伝統行事「青山様・ほんほん」を、次世代につなげる取り組みを始めています。

まず5月に、PTAの役員が伝統行事の写し、小林町会長から青山様・ほんほんの歴史を真や映像を記録して学びました。夏には笹



PTAの役員と一緒に古い写真などを見て行事の歴史を勉強

部町会の児童154人に伝統行事について意識調査を行い、卒業を控えた6年生が秋に新聞を作った企画が生まれました。

◇ ◇ ◇

10月2日、6年生有志8人が笹部公民館で「青山様・ほんほんの伝承会」を開催しました。男子が杉の葉でみこしを作ったあと、映像を見ながら行事の歴史などの説明を受け、町会長との質疑応答でさらに理解を深めました。

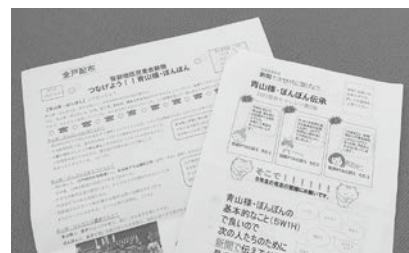
参加した児童からは

「知らなかったことを知ることができて良かった」「下級生に教えたい」「大切な行事がこれからも続くように新聞づくりを頑張りたい」など感想や意欲を聞くことができました。

◇ ◇ ◇

この伝承会で学んだ内容を基に、6年生が笹部地区児童会新聞「つなげよう! 青山様・ほんほん」を作成して、11月初めに笹部町会の全戸に配布しました。

小林町会長は伝統行事の今後に向けて「年明けの三九郎復活もふくめ、子どもたちの熱心な取り組みを町会の皆さんとともに、温かく見守っていききたい」と話しています。



笹部町会の6年生が作成した児童会新聞

師走から正月にかけては、落ちついた黒さが重厚さを醸し出し、その存在感を一層引きだたせる。年の瀬の喧騒をものともせず、立ち続ける黒き天守も、来年は築造429年目を迎える。

(小山淳一)

## 雑感

松本城という「黒」というイメージがある。旅の本には、「漆黒の…」とか、「黒と白のコントラストが…」とかいう文字が躍る▼なぜ黒く見えるのか。それは、天守外壁下部の下見板張りの耐水性・防腐蚀性を高めるために塗った漆を黒くしてあるからだ。わざわざ黒くしたのは、天守3棟を築造した石川氏が、豊臣秀吉の黒い大坂城天守を意識して、豊臣方の証として天守を黒くしたからと云われている

▼松本城天守では、毎年9月から10月末に黒漆の塗り替えをしているが、お城まつりの前に、今年もお色直しが終わった。塗りがついでに間もない時期、下見板に華やかな漆黒を纏った天守が、朝の光を浴びて銀色に輝く姿を見ると、思わず手を合わせたくなる▼漆黒の輝きは、紫外線と砂混じりの風に苛まれ、徐々に輝きを鈍くしていくが、

10月4日、鎌田地区公民館の5つの専門委員会の委員19名が参加して、最初に入山辺地区を訪ねました。平成23年に住民主体の地域づくりを進めようと立ち上げた「こんな山辺にするじゃん会」の活動状況について、入山辺地区公民館の小笠原館長から話を聞きま

見聞を広める  
専門委員  
研修交流会



した。質問も多く、地域づくりを考える参加者の意気込みが伝わってきた研修でした。中山の松本市考古博物館では、弘法山などで発掘された土器の展示を見学し、最後に鎌田地区の両島浄化センターで下水の浄化過程を見学するなど、知見も深まりました。委員相互の交流も図られ、公民館活動の活性化に繋がる良い機会となりました。



発掘された土器を見て、昔の技術の高さに驚く参加者たち

鎌田地区公民館長を公募します

- 鎌田地区公民館の館長を公募します。公募の概要は左記のとおりです。なお、応募要項の詳細は「公民館だより」12月号(隣組回覧)に記載していますのでご覧ください。
- 身分職名…会計年度任用職員・地区公民館長
- 任用期間…令和5年4月から1年(更新可)
- 業務内容…地区公民館(社会教育施設)の運営や事業
- 企画、関係団体との調整等
- 応募資格…年齢・性別不問
- 応募方法…履歴書(書式は自由)に300字程度で自己PRを書き添えて、12月28日(水)までに鎌田地区公民館へ提出
- 選考方法…1月中旬に選考委員会による面接で決定
- 問合せ先…鎌田地区公民館(電話26-0206)

鎌田地区の歴史 ⑰



国内初の民間飛行場は笹部地区にあった  
(笹部町会・昭和3年)

大正13年(1924)、松本の空に飛来した長谷川清登飛行士(現 安曇野市出身)の操縦する複葉機を熱烈歓迎した市民は、翌14年には有志が長谷川飛行士後援会を立ち上げた。資金を募って用地を購入し、現在のIHアグリテックの工場から自衛隊松本駐屯地の南側敷地あたりに笹部飛行場を開設した。

昭和3年(1928)には格納庫が造設され、競馬場も併置したこの国内初の民間飛行場は、立川などの飛行連隊の演習訓練に使われたほか、所有する6機により宣伝・遊覧飛行や新聞の原稿輸送等々も行ったが、同9年の室戸台風で格納庫とともに全機を失い、飛行場は閉鎖された。

美術工芸作品展を開催

10月24日〜28日の5日間、鎌田地区公民館で活動するサークルの皆さんの活動発表の場として、美術工芸作品展が開催されました。また、夏に開催した「こども陶芸体験教室」に参加した18人の作品も並び、会議室には300点もの作品が展示されました。会場を訪れた方からは「細かいところまで綺麗に作られていてすごい」「子どもたちの作品もよくできている」と、じっくり鑑賞を楽しむ声が聞こえました。



▲ 鑑賞者の目を引く華やかなアートフラワーの作品  
◀ 小学生が一生懸命に作った小鉢とマグカップ